

ひろしま発産業イノベーション 加速化に向けて

平成24年8月
広島県

目次

1 ひろしま発産業イノベーションモデルの構築に向けた検討

(1) 地域発産業イノベーションを生み出すシステムの理論的考察

- ① イノベーション創出の要因とは4
- ② イノベーション創出の必要条件について5
- ③ イノベーション創出を促す社会システムの必要性6

(2) 地域の将来に関する危機意識の共通認識の醸成

- ① 少子高齢化に伴う地域経済・産業の縮小スパイラル7
- ② これまで地域経済を支えた屋台骨産業の課題8
- 《参考》県内企業から寄せられる危機意識等9

(3) ひろしま発の産業イノベーション構築モデルの考察

- ① マーケットニーズの変化に伴う対応の必要性10
- 《参考》域内で見られる新たな産業・ビジネスモデルの萌芽(例)11
- ② ひろしま発の産業イノベーション構築モデルについて12

2 産業イノベーション加速化のための具体的な戦略

- ① これまでの取組状況14
- ② 主要施策の取組状況について(施策工程表)15
- ③ ひろしま産業イノベーション加速化に向けた検討の方向性19

1 ひろしま発産業イノベーションモデルの 構築に向けた検討

(1) 地域発産業イノベーションを生み出すシステムの理論的考察

① イノベーション創出の要因とは

- ◆ イノベーションは、**企業間・組織間のコラボレーションやネットワーク等の協働の中から生まれやすい。**
- ◆ 多彩な人材等が集まり、アイデアを具現化する仕組みがあれば、**イノベーションは連鎖的に発生する。**

※イノベーションの捉え方

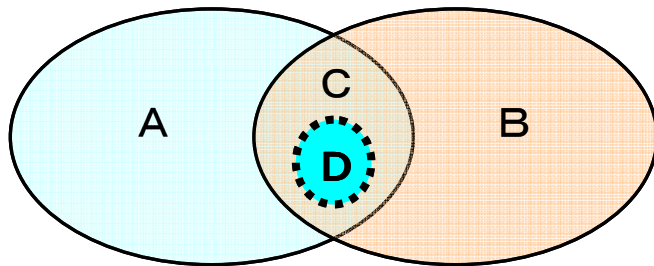
これまでの発想や手法に捉われないことなく、**新しいアイデアやモノや情報、仕組みなどを組み合わせることにより、新たな価値を創造すること**

(参考) Schumpeter による定義：経済活動の中で生産手段、資源、労働力等を新たな方法で結合すること

<イノベーションの具体的タイプ類型>

- (1) 新たな財貨の生産(プロダクト・イノベーション)
- (2) 新たな生産方法の開発(プロセス・イノベーション)
- (3) 新たな販売先の開拓(マーケティング)
- (4) 新たな仕入先の獲得(サプライチェーン・マネジメント)
- (5) 新たな組織の実現(組織イノベーション)

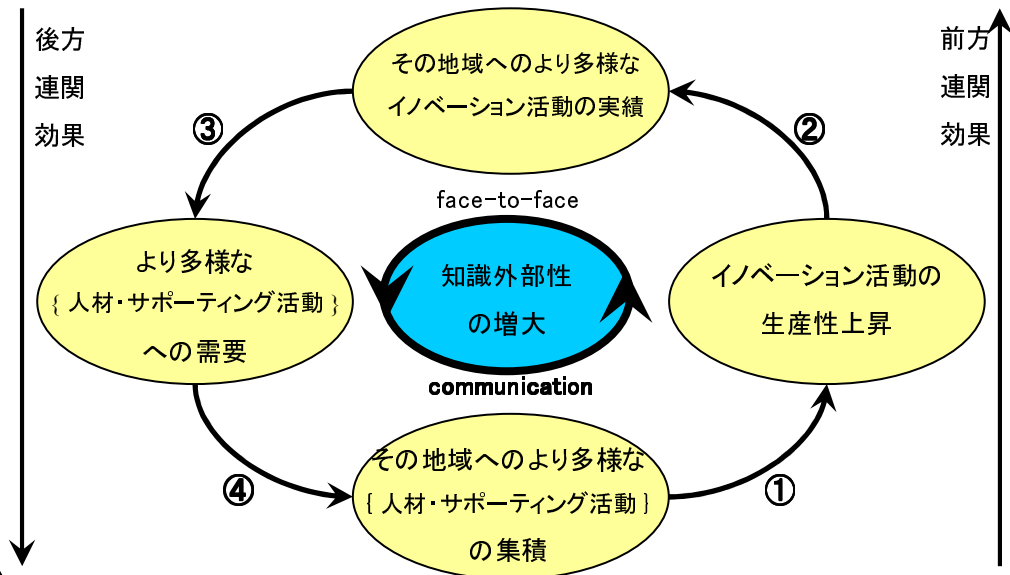
イノベーションが創出する場



- A: 産業集積
- B: 企業間関係ないし組織間関係・コラボレーション・ネットワーク
- C: 産業クラスター
- D: 「新しい価値」を生み出す部分(イノベーション)

イノベーションの場の形成メカニズム

(三人寄れば文殊の知恵モデル)



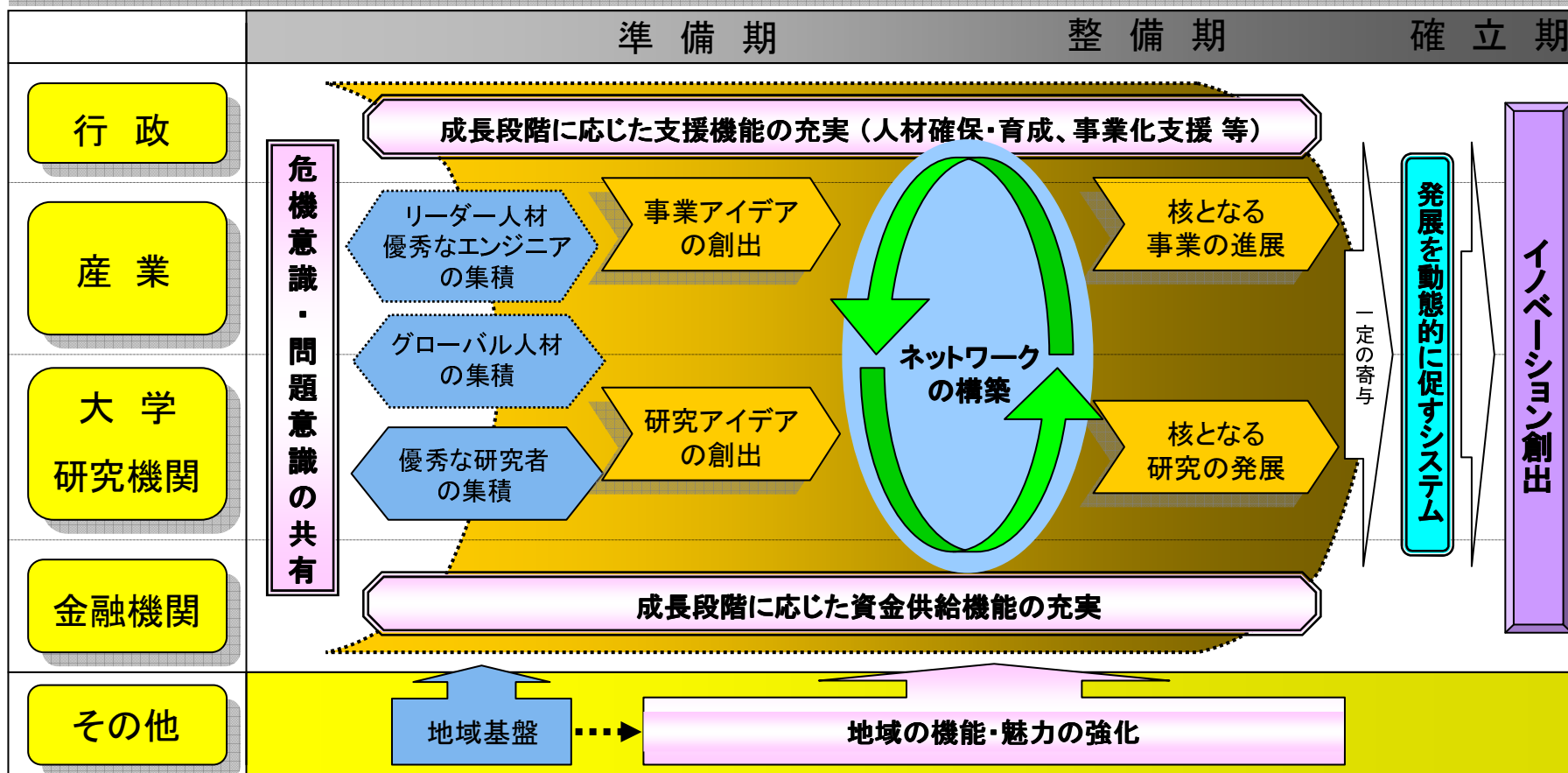
② イノベーション創出の必要条件について

◆ 緒言によれば、イノベーション創出には、**直接的要因と間接的要因**に分けられ、具体的には、**危機意識・やる気、支援環境、連携・ネットワーク、人材確保・育成、企業集積、知の拠点、地域基盤等**に整理され、各要因を活性化させる対策が必要

区分	要因	要因の説明(例)	
危機意識・やる気	・危機意識, 問題意識, やる気	・関係者間での危機意識・問題意識の共有, 各関係者の積極的な取組の実施	
支援環境	・支援機関	・中核的支援機関の充実, インキュベータの充実	
	・支援人材	・コーディネーター等の人材発掘・確保, 産業支援サービス業従業者の増加	
	・資金供給機能	・金融機関やVC, 企業等からの研究開発や事業化に対する資金提供	
	・法規制・リスク	・優遇税制(低い法人税), 規制緩和の実施	
連携・ネットワーク	・ネットワーク	・産学金官ネットワーク, 企業間ネットワーク, 研究者の交流機会	
人材確保・育成	・多様な人材	・リーダー人材, グローバル人材の確保 ・研究者, 経営者, 技術人材の集積 ・外国人の受け入れ体制, 留学生の増加	
企業集積	・核となる企業	・地域産業における中核企業の創出, 企業誘致	
知の拠点	・核となる大学・研究機関	・大学・大学院・研究機関からの優秀な研究者・技術者の輩出	
地域基盤 等	・地域基盤	安全	・刑法犯が少ない, 災害に強い
		安心	・医療機関・介護老人福祉の充実, 保育所等の子育て環境の充実
		居住	・通勤・通学の利便性, 広い住居空間, 物価水準が低い
		インフラ	・都市公園(都心部の緑被状況)・公共交通の充実, 公共下水道の完備
	・地域機能	・小売店舗・飲食店の充実	
	・地域の魅力	・美術館・博物館・進学校が多い, 市場の魅力, 経済集積, 環境都市	
	・地域の多様性・寛容性	・外国人居住者が多い, クリエイティブ人材が多い, 経済文化団体が多い	

③ イノベーション創出を促す社会システムの必要性

- ◆ イノベーション創出は、**非連続的な性格を有するため、連鎖的に発生させるための循環システムを具体化することは容易でなく、現に多くの地域で取組が進められているものの、大きな成果に結びついていない。**
- ◆ イノベーション創出に**寄与する・阻害しない観点から、「地域産業を支える各主体による危機意識や問題意識の共有」、「新たな展開アイデアを有する核となる企業・人材・大学等によるつながりの強化」、「成長段階に応じた支援機能や資金供給機能の充実」、「地域の機能・魅力の強化」**は整備すべき必要条件であるが、**発展を動的に促すシステム**を伴わなければ、好循環は生まれにくいと考えられる。

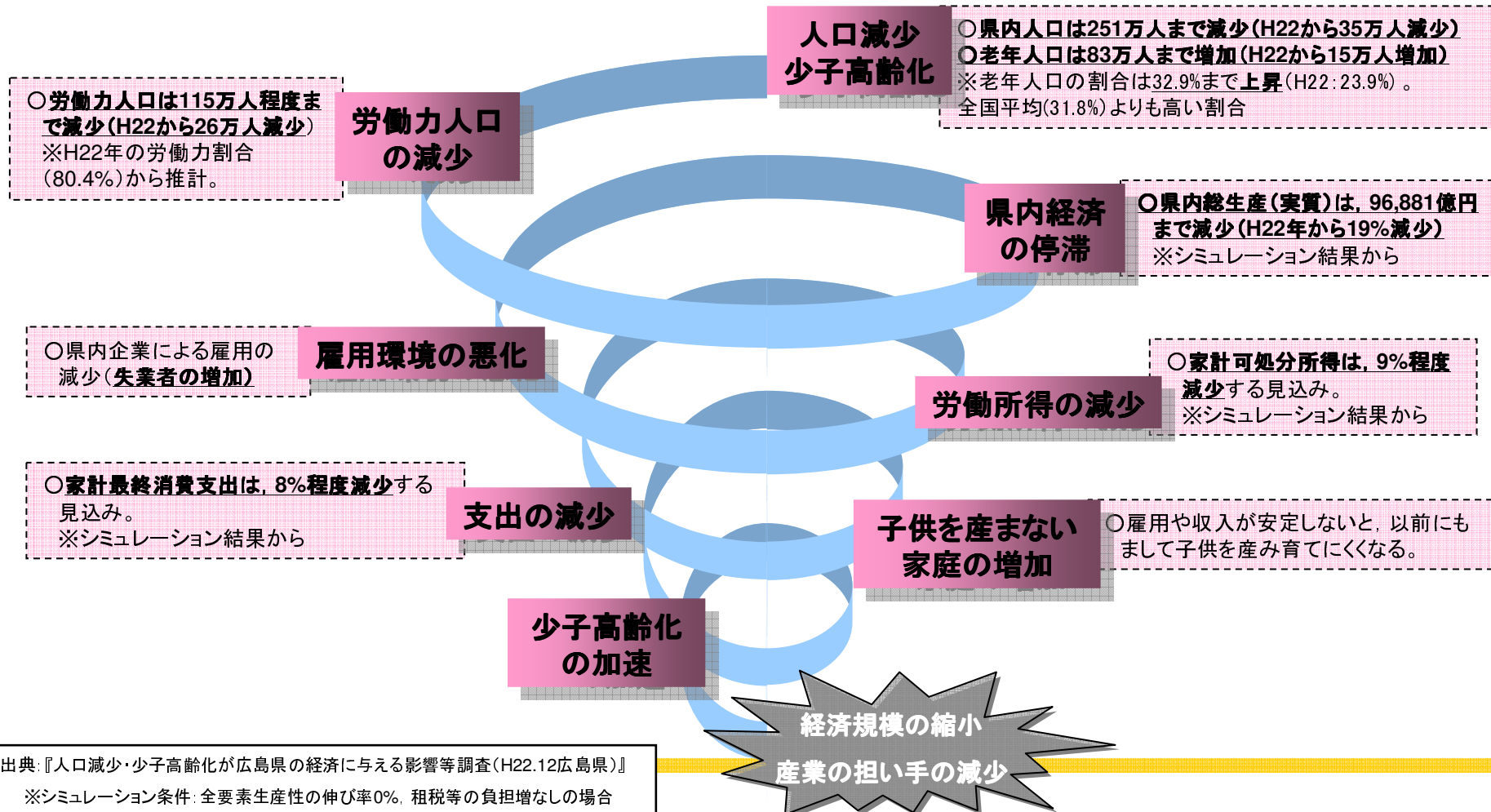


(2) 地域の将来に関する危機意識の共通認識の醸成

① 少子高齢化に伴う地域経済・産業の縮小スパイラル

◆ 広島地域においても人口減少・少子高齢化により、**労働力人口の減少や県内総生産の減少が進むことにより、県内の経済規模が縮小していくことが懸念される。**

人口減少・少子高齢化がもたらす負のスパイラル【20年後の広島の姿】



出典:『人口減少・少子高齢化が広島県の経済に与える影響等調査(H22.12広島県)』
※シミュレーション条件:全要素生産性の伸び率0%、租税等の負担増なしの場合

② これまで地域経済を支えた屋台骨産業の課題

- ◆ 本地域は、造船、鉄鋼等の重厚長大産業や自動車、一般・電気機械などの産業が地域経済を支えてきており、これらの産業で製造品出荷額等の約7割を占める。
- ◆ 代表的産業である自動車産業は、特に海外生産の拡大に伴う対応が課題、電気機械産業は、製品の世界的なコモディティ化による価格競争激化の中での付加価値の創出が課題となっており、こうした課題の対応に加え、新たな展開を模索する必要がある。

広島県の製造品出荷額等の推移

《輸送用機械(自動車、造船)》

- 平成10年代前半は、出荷額は減少傾向であったが、後半から回復し、平成20年に最高を記録。しかし、リーマン・ショック(H20.9)及び東日本大震災(H23.3)等の影響により再び減少。

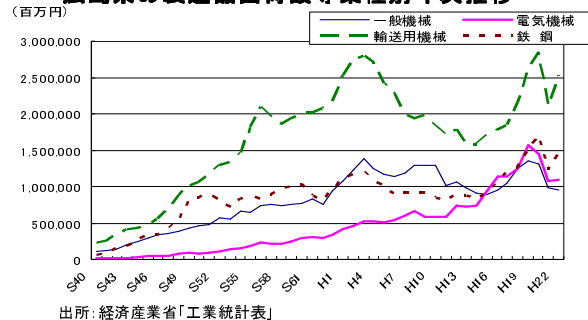
《一般機械》

- 出荷額は横這いで推移してきたが、近年設備投資の減少等により減少。

《電気機械》

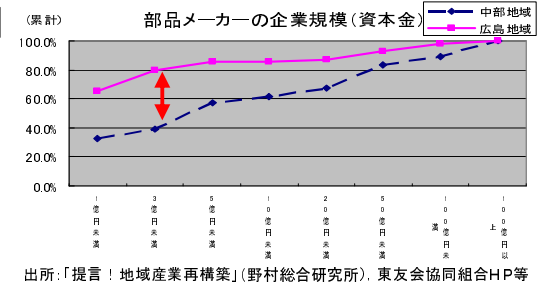
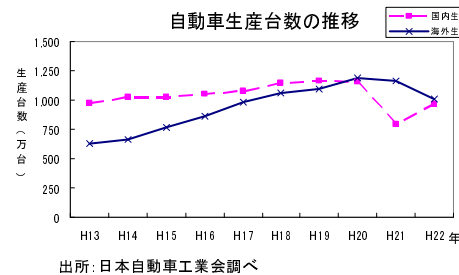
- 昭和60年のシャープ福山工場、平成2年のエルピータメモリ等の立地により、出荷額は増加傾向にあったが、ここ数年減少。

広島県の製造品出荷額等業種別年次推移



自動車産業

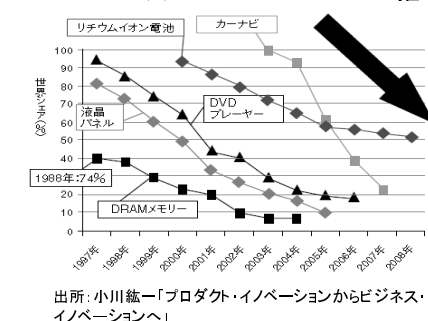
- 国内自動車メーカーは海外生産を進め、H20年には海外生産台数が国内生産台数を上回る。マツダ(株)も海外生産比率を現在の30%からH28年には50%に引き上げると発表(2012年2月2日)。
- 県内の部品メーカーは、他地域より企業規模が小さく、海外進出の際に財務的な課題がある。(資本金1億円未満の企業が約6割を占める)



電気機械産業

- 日本企業は高い技術力での優位性により、当初は新たな製品市場で高い世界シェアを確保するものの、普及拡大局面では急速にシェアは低下。
- 結果として収益につながっていないことが課題である。

日本企業の製品別世界市場シェアの推移



《参考》 県内企業から寄せられる危機意識等

● 事業環境

【円高・原材料高、価格競争について】

- 円高を何とかしてほしい。法人税を国際競争力が保てる水準まで引き下げてほしい。
- いわゆる六重苦により日本国内で生産活動を継続することが極めて困難。生産体制の再編、アライアンスの強化の進展が必要。
- 原材料の価格高騰が厳しく、売上は伸びても利益は減少している。
- 世間は今価格が安ければ良いというが、そのために大企業が安価な値段を設定すると下請けがみんな泣くという状況に陥っている。

● 新事業展開

【新たな事業展開について】

- 市場の成長が見込まれる新興国市場への対応を支援してほしい。
- 環境負荷を軽減する次世代技術の普及促進を支援してもらいたい。
- 医療・福祉・介護など、これからの重要分野の課題を把握するための場作りが必要。
- 自治体には地域が進むべき方向性を適時に示してもらいたい。そのうえで、事業展開に係る施策ニーズについて、「町医者」的にきめ細かに面倒をみてもらいたい。

【海外進出について】

- 既存技術を活かし医療機器分野への進出を考えているが、海外輸出や現地製造販売を行うには不安が多い。コピー商品の拡大も懸念され、防衛手段を講じれるような仕組みを考えてほしい。
- 海外進出に取り組む中小企業は増えているが、親会社から強要されるケースも多いと聞く。現地での工場建設の資金は親会社は出してくれないのが通常であり、こうした問題は技術の海外流出などにもつながると懸念。

● 人材育成・確保

【後継者育成について】

- 団塊世代の優れた技術者の大量退職後の後継者不足があり、技術・技能の伝承を効率良く行う人材育成が重要。
- 次世代経営者育成プログラムの整備も必要。
- 血気盛んな情熱を持ったイノベーターを抽出し、コーチングする仕組みを作ってほしい。

【人材育成について】

- 海外展開に貢献できる人材が不足している。海外経験や疑似体験の機会づくりを行うことや、海外の優秀な人材を招聘することも重要である。
- 中小企業は全て会社研修でカバーできないので、研修機会の充実が必要である。

【教育・大学等について】

- 次世代の人材を育成するためには、今の子供達が地元産業に興味を持つような教育を行うことが必要。
- 高校までは強豪校があっても、大学や社会人大学で強豪校がない。
- 優秀な留学生を大学や高校に受け入れ、切磋琢磨させることが必要。
- 大学が人を呼び込む拠点、企業を呼び込む拠点(産学官の連携拠点)としての役割を果たせていない。
- 県内理工系大学等卒業生のうち、県内企業への就職が少ない。

【その他】

- 若年層に限らず、熱意ある高齢者もあわせて活力を発揮させることを考えないと、実情から離れていく。
- いわゆる3Kの職場に該当するが、求人を出しても全く人が来ない。頼りになるのは外国人研修生や実習生にならざるを得ない。

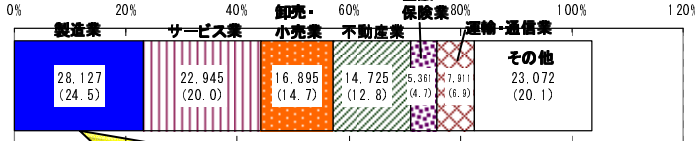
(3) ひろしま発の産業イノベーション構築モデルの考察

① マーケットニーズの変化に伴う対応の必要性

- ◆ 東日本大震災や電力不足、円高や少子高齢化の進行など、社会・経済情勢の変化から、消費者ニーズが変化。ニーズの変化に対応した産業の創出や転換が必要。

これまで広島の経済を支えてきた産業

【経済活動別構成比(名目)】



約7割を占める
5業種で製造業全体の



※写真は一例

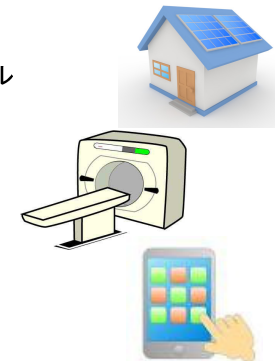
しかし、近年...

- 原材料価格の高騰や電力不足など、資源・環境・エネルギー問題が発生
- 少子高齢化に伴う労働力の減少、社会保障関係費の増大
- 長引く円高と新興国の台頭による国際競争の激化、海外生産への移行に伴う国内産業の空洞化
- デフレ継続による企業収益の悪化 等

今後はどのような産業を形成していくべきか？

～ 最近のマーケットニーズ(例) ～

- **低炭素、省エネ型社会**
(資源・環境問題の高まりから、再生可能エネルギーや省エネ機器の導入 等)
- **安心・安全型社会**
(急速な少子高齢化に対し、医療機器や周辺サービスの充実、子育て支援サービスの充実 等)
- **価値創造社会**
(QOL(クオリティー・オブ・ライフ)の向上 等)



マーケットニーズ
を踏まえた対応

- ① ヘルスケア産業や新エネルギー産業等の課題解決型産業の創出
- ② 基幹産業とクリエイティブ産業等のコラボレーションによる基幹産業の強化、次世代産業の創出
- ③ 価格競争から価値創造競争への転換

《参考》 域内で見られる新たな産業・ビジネスモデルの萌芽(例)

① 将来課題解決モデル

◆ 少子高齢化やエネルギー・環境問題等の課題解決を目指す産業の創造

【医療課題解決(遠隔手術, 再生医療等), 環境浄化ビジネス, 地域EMS(エネルギー・マネジメント・システム) 等】

《 医療機器開発 》

● プラズマを利用した医療機器開発

～(株)アドテックプラズマテクノロジー, ローツェ(株)

・プラズマ用高周波電源装置を製造する(株)アドテックプラズマテクノロジーと半導体搬送装置メーカーのローツェ(株)が共同で, 細菌による皮膚炎を治療する医療機器を開発(マイクロプラスター)



《 環境浄化ビジネス 》

● 中国四川省での新事業展開

～ラボテック(株)

・環境問題を抱える中国四川省での商談会において, 環境分析装置製造業のラボテック(株)が四川省の環境機器販売会社と環境分析装置に係る販売代理店契約を締結。



契約締結式

② 基幹産業強化・発展モデル

◆ 地域の基幹産業である「自動車」「造船」「電気・機械」等の強化・発展を目指す産業の創造

【次世代自動車に対応した部素材開発, エコシップ, 人間工学を活用した製品開発 等】

《 次世代自動車関係 》

● スカイアクティブ技術による低燃費の実現

～マツダ(株)

・マツダ(株)は独自のスカイアクティブ技術やアイドルストップ機構により, 一般的なハイブリッド技術なしで低燃費を実現。新世代クリーンディーゼルも開発。



《 エコシップ(造船) 》

● 環境負荷低減船「eFuture」, プラグイン電気推進船「ZEEPS」の開発

～(株)IHIマリンユナイテッド

・波や風の影響を受けにくい形状にして抵抗低減を図り, 燃費効率に優れたエンジンの搭載や太陽光パネルによる発電を活用した推進効率に優れた環境負荷低減船を開発(eFuture)



③ 価値創造モデル

◆ 既存技術等の付加価値の増加を目指す産業の創造

【IT等を活用し, QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上のための技術開発 等】

《 医療費適正化とQOLの維持 》

● ITサービスでの医療費適正化

～(株)データホライゾン

・地方自治体や健康保険組合に, 医療情報を活用したサービスを提供。

- ① 保健事業支援サービス: 糖尿病の重症化を防ぎ, 対象者のQOLを維持し, 同時に医療費の高額化を防ぐサービス 等
- ② ジェネリック医薬品通知サービス: 服用している薬をジェネリック医薬品に切り替えることを勧めるサービス 等

《 フォトイノベーション 》

● フォトイノベーションによる新事業展開

～(株)アスカネット

・「フォトイノベーション」をキーワードに3つの事業を展開。

- ① 葬儀葬祭市場に特化した, ニッチながらも高い付加価値を得る遺影写真のデジタル加工サービス
- ② “インターネットから写真集”という新しい写真表現を提案する個人向け写真集の作成
- ③ 空中結像技術を基に, 様々な映像画像の新しい表現方法の模索

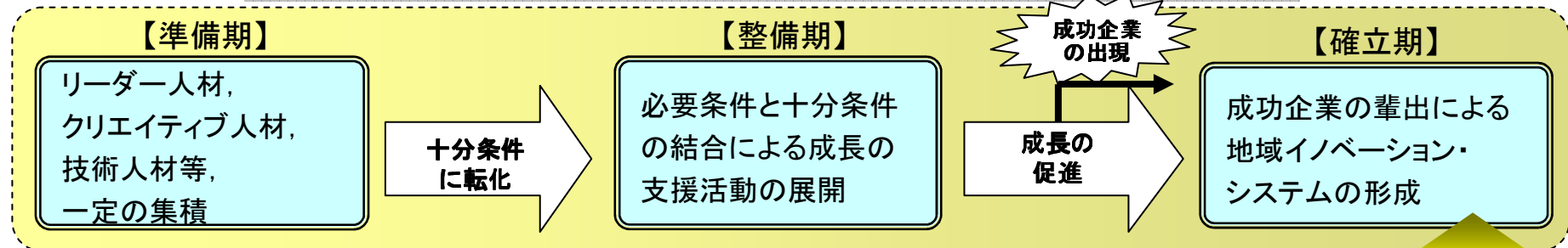


② ひろしま発の産業イノベーション構築モデルについて

◆ 地域発の産業イノベーションの加速化に向けて、環境要因を再構築したうえで、具体的な発展モデルを検討し、重点的に取組・支援していく必要がある。

『ひろしま産業イノベーション構築モデル』

～“課題解決”や“価値創造”を志向する強固な産業基盤の形成～



広島状況(イノベーションリソース)

【企業集積】

- バランスの取れた重層的な産業構造：自動車・造船，鉄鋼，電気機械，一般機械等の企業集積
- 独自のアイデアや高度な技術を生かして創造する企業群：グローバル・ニッチトップ企業の立地

【支援環境】

- 支援機関：中核的支援機関（〔公財〕ひろしま産業振興機構）や（独）中小企業基盤整備機構などによる支援
- 資金供給機能：県費預託融資制度による融資，（株）ひろしまイノベーション推進機構等による投資，各種補助金等
- 知の拠点：理工系大学⇒国公立5校（広島大学外4），私立8校（近畿大学工学部，広島工業大学外6）
 研究機関⇒広島中央サイエンスパーク（県産業科学技術研究所，（独）産業技術総合研究所中国センター，中国電力研究所等），民間R&D機関（マツダ，三菱重工，三菱レイヨン 等）

【地域基盤 等】

○地域基盤

- 気候：年平均気温は16.3度で，一年を通じて温暖な気候
- 人口：中・四国地方最大の人口集積（285万人〔2011年〕）
- 安全・安心：治安が良く，災害リスクが低い。（大規模地震発生確率が低く，津波予想最大高さは1m）
- 生活コスト：他の政令指定都市と比べ，物価や住宅賃料が安い。
- インフラ：安定した電力供給，国際交通インフラが不十分

○地域の魅力

- ・ユネスコ世界遺産（厳島神社，原爆ドーム）など，多数の海外観光客を誘引する観光資源
- ・ハイクラスホテル客室数が少ない
- ・美術館・博物館，コンサートホール 等が少ない

○地域の多様性・寛容性

- ・外国人居住者が少ない（H23.12末登録者数39,261人〔全国第15位〕）

イノベーション創出条件の強化

新たな発展モデルの検討

2 産業イノベーション加速化のための 具体的な戦略

① これまでの取組状況

- ◆ 広島県は、平成22年10月に『ひろしま未来チャレンジビジョン』を策定し、雇用や所得を生み出す『新たな経済成長』を県発展のエンジンと位置付けている。
- ◆ 平成23年7月には、おおむね10年先を見据え、本県産業の進むべき方向性・道筋の基本方針として『ひろしま産業新成長ビジョン』を策定。

基本理念

魅力のある雇用が創出され、県民が将来に向けて大きな希望を持てる強固な経済基盤を確立します。

本県産業を取り巻く環境

- 自動車産業を中心とした産業構造
- 少子化による人口減少、高齢化の進展に伴う社会の活力への影響
- グローバル化の進展や、新興国の台頭等に伴う競争の激化
- 資源・エネルギー・環境問題の深刻化

目指すべき姿(将来像)

- 社会経済情勢や市場の動向に、柔軟かつ的確に対応できる「イノベーション立県」が実現しています。
- アジアを中心とする成長市場を獲得しています。
- 多彩な産業人材の育成・集積が、イノベーションを生み出す源泉となっています。
- 観光が、本県の成長を支える産業の新たな柱となっています。

取組

基本方針

(3つの視点)

- 地域のイノベーション力を徹底強化します。
- 本県の「強み」や「強みの芽」を最大限に活用します。
- 常にグローバル化の視点を持ち、アジアの活力を取り込みます。

本県産業振興の方向性

■新たな産業の育成

- ・次世代産業の育成(医療関連産業、環境浄化産業等)
- ・交流・賑わい型産業の育成

■基幹産業の競争力の強化

- ・次世代自動車への対応
- ・ものづくり産業の高度化、低炭素化

■アジアを中心とする成長市場を取り込んだ事業展開

- ・成長市場を取り込むビジネス展開(中国・四川省、インド・タミルナドゥ等)
- ・優秀な海外人材の確保
- ・観光客誘致の促進

付加価値・競争力を高めるイノベーション力の強化

マインド

人材

技術・研究・開発

資金

事業化

周辺環境

② 主要施策の取組状況について(施策工程表)

I. 新たな産業の育成

現状	H24～26年度	H27～29年度	H30～32年度	成果目標
○次世代産業の育成				
<p>【医療関連産業】 ・医療介護分野の市場規模30.5兆円 ・医療・健康・福祉分野への取組み希望214社 ・「ひろしま医療関連産業研究会」を設置 ・意欲的企業への総合的支援、新たな掘起こし必要</p> <p>【環境浄化産業】 ・公害防止対策技術・ノウハウを有する企業等が数多く存在 ・国内市場の成熟が進む一方で新興国等の海外市場が拡大</p>	<p>医療関連産業クラスター形成事業</p> <p>・クラスター形成基盤づくり (①クラスター形成方策検討, ②医療関連産業研究会) ・県内企業の意欲的取組への支援 (①重点企業支援, ②企業活動支援, ③医療現場ニーズ・課題発掘) ・県外大手医療関連企業の立地・設備投資促進(誘致活動) ・ひろしまの技術を応用したビジネス創出</p>			<p>○中長期: (H32) ・医療機器生産額1,000億円 ・医療関連企業数100社</p> <p>○H24: ・医療機器生産額112億円 ・医療関連企業数 33社</p>
	<p>環境浄化産業クラスター形成事業</p> <p>・クラスター形成の基盤づくり (①環境ビジネス協議会設置・運営, ②四川省との関係強化, ③アジア市場調査) ・海外企業とのマッチング機会創出 (大企業プロジェクト・中小企業案件組成) ・海外ビジネス活動支援(①企業活動への補助, ②専門家によるハンズオン) ・海外展開の加速化(①企業活動本格化, ②プロジェクトの具体化) ・企業活動による国内外への展開促進</p>			
○交流・賑わい型産業の育成				
<p>・大型キャンペーン後、観光客数が伸び悩み ・長期的に広島の魅力を伝える「ブランド」の構築が必要 ・おもてなしの心を持った主体的取組み必要</p>	<p>観光地「ひろしまブランド」構築推進事業 → 観光地「ひろしまブランド」浸透の取組</p> <p>・ひろしまブランド化キャンペーン(①観光情報の発信, ②商品の販売促進)</p>			<p>○中長期: ・今後の来訪意向ランキング 10位以内(H26) ・県内の観光関連消費額 6千億円(H32)</p> <p>○H24: 総観光客数400万人増加</p>
	<p>海の道プロジェクト推進事業</p> <p>・瀬戸内プラットフォーム(仮称)の設立, 「瀬戸内 海の道構想」の推進</p>			
	<p>“観光地ひろしま”おもてなし向上推進事業</p> <p>・「おもてなし重点推進地区」活動支援</p>			

Ⅱ. 基幹産業の競争力強化

現 状	H24～26年度	H27～29年度	H30～32年度	成果目標
<p>○次世代自動車への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車メーカーの主要部品の調達割合は、域内4割、域外4割、海外2割、今後電動化が進展 ・メーカーのニーズを的確に掴み、迅速に研究開発を実施 	<p>自動車関連産業クラスター支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーエレクトロニクス推進センターの運営 ・次世代自動車技術開発促進補助金 ・人間医工学を応用した自動車研究開発の推進 ・人材育成支援 			<ul style="list-style-type: none"> ○中長期：(H29) ・自動車部品製造業の製品出荷額等において、H21の水準[6250億円]を維持
<p>○ものづくり産業高度化・低炭素化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの源泉となる高い研究、技術開発力が必要 ・中小企業は大企業に比しての経営資源～ヒト、モノ、カネに限られ、新事業展開は容易でない ・ものづくりの高付加価値化の重要性が増している ・中小企業のビジネスでの知財活用が十分ではない 	<p>ものづくり産業高度化推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感性人材ネットワーク構築支援事業 (①感性価値を付加したものづくり支援, ②LED関連産業の創出支援) <p>円高に対応した海外展開・技術力強化支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産技術革新支援事業 (①生産現場改善指導, ②生産技術革新支援補助) ・海外市場獲得支援事業 (海外規格認証のための試験測定機器等整備) <p>知財活用ビジネス総合支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業知財支援センターの運営 			<ul style="list-style-type: none"> ○中長期：(H27) ・指導・支援先企業の付加価値額増加率平均6% <ul style="list-style-type: none"> ○H24: ・VE活動による現場改善指導10社 ・RTの活用による生産改善計画策定20社以上 ・整備機器利用件数80件/年 <ul style="list-style-type: none"> ○中長期：(H28) ・産業財産権出願件数中国、四国、九州地方1位

Ⅲ. アジア市場への参入・獲得(アジア戦略)

現 状	H24～26年度	H27～29年度	H30～32年度	成果目標
<p>○成長市場を取り込むビジネス展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内需が縮小。アジア等新興国市場への関心高い ・四川省重慶市は市場の将来発展可能性が高い ・商談で成約に至った成功事例がまだない ・インドでは現地情報が不足 ・事業展開企業数が少ない 	<p>中国ビジネス交流拡大事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地事務所の設置・運営(情報収集・提供, 商談左記企業の発掘等) ・販路拡大支援(①商談会の開催, ②県産品物販イベント, ③現地見本市等) <p>インド広島経済交流推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インド訪問団の派遣(経産省と連携), 商談会の実施, 展示会への出展 <p>円高に対応した海外展開・技術力強化支援事業(海外市場獲得支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外市場獲得支援事業(①海外規格認証のための試験測定機器等整備, ②国際規格・海外規格認証取得経費の支援) 			<ul style="list-style-type: none"> ○中長期: <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業の中国・インドへの輸出額の増加 ・事業展開件数 <ul style="list-style-type: none"> 四川省 14件以上(H25) インド 24件以上(H26) ・現地企業との業務提携数 <ul style="list-style-type: none"> 四川省 3件以上(H25) インド 9件以上(H26) ○H24: <ul style="list-style-type: none"> ・整備機器利用件数80件/年 ・輸出額の増加
<p>○優秀な海外人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業ニーズに対し, 理工系留学生不足 ・中小企業では海外事業立上げる即戦力人材が不足 	<p>グローバル人材育成確保促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりグローバル人材育成(①H24留学生受入, ②H23留学生育成, ③協議会運営) ・中小企業等グローバル人材確保支援(人材派遣会社の活用による即戦力人材の確保) 			<ul style="list-style-type: none"> ○中長期:(H25-26) <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携受入れ優秀留学生の県内企業への就職者数 8名 ・即戦力となるグローバル人材確保30社 ○H24: <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な留学生受入5名 ・人材確保した企業数10社
<p>○観光客誘致の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型キャンペーン後, 観光客数が伸び悩み ・長期的に広島の魅力を伝える「ブランド」の構築が必要 ・おもてなしの心を持った主体的取組み必要 	<p>観光地「ひろしまブランド」構築推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしまブランド化キャンペーン(①観光情報の発信, ②商品の販売促進) <p>海の道プロジェクト推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内プラットフォーム(仮称)の設立, 「瀬戸内 海の道構想」と連動した事業展開 <p>“観光地ひろしま”おもてなし向上推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもてなし重点推進地区」活動支援 	<p>観光地「ひろしまブランド」浸透の取組</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○中長期: <ul style="list-style-type: none"> ・今後の来訪意向ランキング10位以内(H26) ・県内の観光関連消費額6千億円(H32) ○H24: <ul style="list-style-type: none"> ・総観光客数400万人増加

IV. イノベーション創出のための環境整備

現 状	H24～26年度	H27～29年度	H30～32年度	成果目標
<p>○資金供給等の施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた技術等を有する企業が数多く存在 ・成長資金を供給する投資ファンドの集積が十分でない ・(株)ひろしまイノベーション推進機構を設立し105億円余のファンドを組成 	<p>(株)ひろしまイノベーション推進機構の設置・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資の実行 ・ハンズオン支援の実施、海外展開の取組(マッチング等) 			<p>○中長期(H25): イノベーション推進機構による出資企業数 6社</p>
<p>○人材育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの原動力となる高度で多様な産業人材の育成が必要 ・若者の県外転出超過人数が増加 ・県内理工系大学等卒業者の県内就職率36.6% 	<p>イノベーション人材等育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション人材等育成補助(企業向け) ・未来チャレンジ資金(個人向け)(①PR・広報の充実, ②意識変革(専門教育機関連携セミナー)) <p>ひろしま企業オンキャンパス・リクルーティング事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西の大学等での合同企業説明会 ・関東・関西の大学と県内企業との交流会 ・県内大学等でのものづくりインターンシップ講座(県内理工系卒業生確保) 			<p>○中長期(H27): ・企業・個人の研修等参加人数210人 ○H24: 高度な産業人材の育成45人</p> <p>○中長期(H26): ・県外大学新卒者等のU・Iターン就職者数2,566人(H21比200人増) ・県内理工系大学等卒業者の県内就職率40%</p>
<p>○その他の施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の新たな事業展開を通じた企業成長が不十分 ・産学官での共通認識ができていない ・人的、組織的ネットワークが希薄 	<p>中小企業イノベーション促進支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな事業展開に取組む企業への集中支援(①企業への事業案内, ②支援企業の募集・受付, ③集中支援展開, ④支援の外部評価) <p>地域イノベーション戦略推進体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学金官トップによる推進会議の設置 ・産業イノベーション加速化戦略(仮称)策定 			<p>○中長期(H28): ・支援企業の売上高増加率100% ○H24: 支援企業数15社</p> <p>○中長期(H26): 新たな産学官による連携体制構築</p>

③ ひろしま産業イノベーション加速化に向けた検討の方向性

◆ 将来にわたって、広島における産業イノベーションを加速的に巻き起こしていくためには、創出を促す要因の整備に加えて、動的(ダイナミック)な社会システムとしてイノベーション発生を促す仕組みを構築していく必要があるのではないか。

■ 地域発で産業イノベーション創出の好循環を形成するために、特に影響を及ぼすと考えられる具体的テーマとして以下を設定してはどうか。

- ① 地域産業におけるイノベーションを担う人材供給・教育システムの強化
- ② 未来市場開拓型のイノベティブなプロジェクトの開発・事業化
- ③ 地域企業にイノベーションを促す成長支援システムの再構築

■ これらの実現に向けて、現在取り組みを進めている施策の重点化を図るとともに、新たな施策措置の導入についても検討を行ってはどうか。

■ 今後新たに措置すべき施策アイデア(たたき台)

(1) 地域産業におけるイノベーションを担う人材供給・教育システムの強化

- イノベーション担い手養成プログラムの強化
 - * 次世代リーダー、コーディネーター養成塾の開催
 - * 専門機関やものづくりOB人材等との連携による現場力向上プログラムや、グローバル研修プログラムの整備

(2) 未来市場開拓型のイノベティブなプロジェクトの開発・事業化

- ① 新たな産業クラスター形成の加速化
 - 医療関連産業クラスター形成の加速化
 - 環境浄化産業クラスター形成の加速化
- ② 地域発の未来市場開拓型プロジェクトの推進
 - 未来市場開拓につながる研究・事業アイデアの発掘、開発・事業化支援

(3) 地域企業にイノベーションを促す成長支援システムの再構築

- ① イノベーションマインド・戦略の共有
 - 産学官のつながり力の強化
 - * 地域イノベーション戦略推進会議の開催
 - イノベーション県民運動の展開
 - * 各地域におけるイノベーション促進会議の開催
 - * ひろしまイノベーション・アワードの創設
- ② イノベーション創出環境(事業支援環境)の革新
 - ノウハウ支援機能の充実
 - * 中小企業の意欲的な新事業展開に対するチーム型支援の充実
 - * 域内産業支援機関の連携強化
 - * 知的財産有効活用に向けたワンストップサービスの整備
 - 資金供給機能の強化
 - * 起業や成長事業等に対する資金供給機能の充実
 - 地域発の事業インフラ改革
 - * 県内新規立地、設備投資に対する減税制度 等